飯豊町

萩生村に水を！「中村 堰」

昔の中村、萩生村（現飯豊町中、萩生）、時庭村（現長井市時庭）の3つの村は、田んぼを作るための用水が不足し困っておりました。特に、山王原は大きく広がる原野で、田んぼを作るにも水が無いため開発できずに、松や雑木が生えているだけの土地でした。

1620年（元和年間）ころ、萩生村に梅津利左工門という人がおりました。村の中で争いが起こったりすると、仕事を投げだして仲直りをさせたり、いつも村の平和のために苦労を惜しむことない人でした。その利左工門は、長い間水不足に悩む村人を救うために、長井市を流れている野川の水を引くことを考え出したのでした。

利左工門は、上杉の殿様より許しをいただき、村人たちの先頭にたって水路の工事にとりかかりました。土が軟らかくせっかく掘ったところが崩れ、なかなか工事が進みませんでした。また、砂利のためせっかくの水が、土の中に染み込んでしまい水が流れなかったのです。利左工門はいろいろな方法で、水漏れを防ごうと努力しましたが、水漏れはとまらず、ついに工事を中止することになったのでした。

今も残る堰跡

昔の決まりでは、藩の許しをもらった工事で、失敗すると厳しい罰を受けなければなりませんでした。この仕事の責任者である梅津利左工門も、決まりどおりに、“はりつけ”の刑を受けることとなったのでした。村人たちは、利左工門の死をなげき悲しみ、村が持っていた山林約20ヘクタールを、残された家族に贈り、とむらったといわれております。

村を愛した利左工門の計画は、失敗に終わりましたが、水を引くという願いは、近くに住んでいた梅津嘉兵工とその子である、政右工門が受け継ぎ、1655年（明暦元年）ついに水を流すことができ、その新しい堰の名前を、村人たちは「政右工門堀」と名づけたのでした。しかし、いつの日から「中村堰」と人々からいわれるようになりました。

そのおかげで、3つの村は用水に苦労することもなくなり、梅津利左工門が夢見た山王原の開田ができるようになり、今のような美しい田んぼが広がることとなったのでした。

堰を開いた記念の碑

【参考文献　野川と土地改良　別冊…野川土地改良区】